

2016年度 4月入学式 総長式辞

皆さん、ご入学おめでとうございます。

早稲田大学を代表して、新入生の皆様ならびにご家族・ご関係者の皆様に対し、心よりのお祝いと歓迎のご挨拶を申し上げます。

このたび、めでたく早稲田大学に入学された方は、学部 9,421 名、大学院 2,905 名の総計 12,326 名に上ります。

このほか、昨年 9 月には 877 名（学部 354 名、大学院 523 名）の方が入学していますので、4 月 1 日現在の 1 年生の総数は、13,203 名になります。

このうち、海外からの留学生は 1,474 名で、全体の 11.2% を占めています。

全国各地から、また、世界各地から数多くの優秀な人材が、早稲田の杜に集まってくださったことを、大変嬉しく思います。

新入生の皆さんは、一人ひとりがさまざまな想いをもって入学してきたことと思いますが、今日から、新たな目標に向かって、自己研鑽に励み、充実した学生生活を送ってくださることを期待しています。

早稲田大学の前身・東京専門学校は、1882（明治15）、

僅か80名の入学者をもって、開校されました。

その開校式において、本学設立を実質的に牽引し、「建学の母」と称されている小野梓は、開校式において、次のように述べています。

「国を独立せしめんと欲せば、必ず先ずその民を独立せしめざるを得ず。その民を独立せしめんと欲せば、必ず先ずその精神を独立せしめざるを得ず。而してその精神を独立せしめんと欲せば、必ず先ずその学問を独立せしめざるを得ず」と。

これは、当時の政府が、一握りの政治家と官僚による上からの近代化政策を進めていたのに対し、本学の創立者たちは、わが国が真の近代国家として欧米列強に対応していくためには、高い学識と自主独立の精神を備えた市民を早急に育成することこそが重要であると考えて本学を設立したことを示しています。

大隈重信や小野梓らの本学建学の理念は、「学問の独立（自由で独創的な研究を通じて世界の学問に裨益すること）」「学問の活用（学理を学理として究めつつ、その応用の道を講ずることによって社会の発展に寄与すること）」「模範国民の造就（個性を尊重し、心身を発達せしめて、学問の成果を私利私欲にではなく社会全体の利益のために用い、広く世界で活動する人格を養成すべきこと）」という「早稲田大学教旨」として、今日に至るまで、本学の精神的な支柱として受け継がれています。

ところで、学部新入生の皆さんは、これまで、どんな問題

にも唯一無二の正解があるという前提で、ひたすら正解を覚えこもうとしてきたのかもしれませんが。

しかし、現代のように、科学技術が急速に発達し、社会構造も大きく変化している時代には、既存の知識の中に正解を見いだすことのできない難問が次々と生じてきます。また、ある米国の研究者が、「2011年に小学校に入学した子供たちが大学を出る頃には、その65%が現在は存在していない職業に就く」と予想しているように、現代社会は、将来を見通すことが著しく困難になっています。

こうした時代には、いかなる難問に直面しても、高度な専門的知識と幅広い教養をもとに、問題の本質を見抜き、自ら調査・分析して解決策を見出し、価値観や文化的背景の全く異なる人々と協働して、これを実行していく力を身につけ、それを不断に更新していくことが必要になります。大学教育も、したがって、そのための基礎的な素養と、自分の頭で考えて独創的な解を見いだす力＝知恵の力、人間力、実行力等を涵養することが目標とされるべきこととなります。

大隈重信も、既に今から100年以上も前に、知識を知恵に代えることの重要性につき、大要、次のように述べています。

「人間の頭脳には、三つの働きがある。一つ目は記憶する力。二つ目は思考する力。三つ目は想像する力である。そして、この三つの力を合わせたものが、知恵の力、「智力」である。ただ記憶力が優れているだけでは不完全である。記憶した事柄を材料として、さらに種々考えていくと、そこに初

めて知恵の力が働きはじめる。また、単に思考するだけでもいけない。さらに何か理想をもって想像の力を働かせてみる。それによって、知恵の力、「智力」の働きが完全なものとなっていく。ただ事実を知っただけでは、「物知り」であるというに過ぎない。その事実からさらに推理し、思考し、想像してはじめて、知識が活用されるようになる。」と。

早稲田大学では、これと同様の観点から、2012年に策定した将来構想「Waseda Vision 150」に基づいて、すべての学生・院生が、生涯をかけて知恵の力と人間力を伸ばし続けていくことができるよう、教育手法の改革や教育・学習環境の改善を続けています。

例えば、「グローバルエデュケーションセンター」では、所属学部の如何を問わず、実践的外国語能力・学術的文章作成力・数学的論理的思考力と統計学などの基礎的スキルと、幅広い教養を身につけることができるようにしています。

また、各学部・研究科の授業においても、主体的・能動的な学びを推進するため、少人数クラスでの議論中心の問題発見・問題解決型の授業やインターンシップ、フィールドワークなどの体験型授業への転換を進めるとともに、学生同士が主体的かつ積極的にグループワークを行うための学習スペースやICT環境の整備を進めています。

早稲田大学はまた、多様な個性をもった学生たちが互いに切磋琢磨することで、自らの能力に磨きをかけてきたという伝統があります。例えば、皆さんの先輩である若山牧水と北

原白秋も、本学英文科の同級生になったことで、互いの才能を伸ばし合うことができたように思います。こうした環境の中で豊かな人間力を育んだ数多くの本学出身者たちが、政治・経済・言論・学術・芸術・スポーツなど、ありとあらゆる分野で、また世界の至る所で優れた活躍をし、社会の発展に貢献してきました。このことは、国際的にも広く認められており、昨年１１月に英国の大学評価機関「ＱＳ社」が発表した、卒業生の活躍ぶりや就業力を評価する国際ランキング（Graduate Employability Rankings 2016）において、本学は、世界７２３の有力大学の中で、国内で第１位、世界でも３３位という高い評価を得ています。

こうした本学伝統の「多様性」を維持・発展させるための施策の１つとして、わが国で最も進んだ留学制度を設けています。約７００の海外有力大学・研究機関との交流協定や英語の授業のみで学位が取得できるプログラムの拡大、多様な留学派遣プログラムの提供等により、国内最多となる約５０００名の外国人学生を迎え入れ、教室やサークル活動で日本人学生と外国人学生が英語で議論できる環境が整っていますし、毎年３０００名を超える在学生在が海外での学びを経験するに至っています。

研究面においては、「博士課程教育リーディングプログラム」、「研究大学強化促進事業」、「スーパーグローバル大学等事業」など大型の公的支援を獲得していますし、過去５年間の文部科学省科学研究費の分野別新規採択状況において、１３分野で採択件数が１位という、私立大学ではトップ、国立

大学を含む全研究機関の中でも5位という成果をあげるなど、国内トップクラスの研究大学としての地位を確立しつつあります。

このように、早稲田大学は、学生・院生の考える力・人間力の向上に資する学習環境・研究環境を整備していますし、異文化交流を深めたり、社会と触れ合ったりする機会も数多く提供しています。しかし、言うまでもなく大学生・大学院生は自立した判断能力を備えていますので、そうした機会・環境を活用するか否かは、学生諸君の主体的・自主的な判断に委ねており、原則として、大学がこれらを強制することはありません。

新入生の皆さん、どうか、長い歴史と伝統の中で本学が培ってきた学問的資産や文化的資産を、また優れた教育・研究環境を、そして個性豊かな学友や社会人との切磋琢磨を通じて自らの能力を伸ばす機会を、すすんで積極的に活用することによって、皆さんの学生生活・研究生活を実り豊かなものとしてください。

皆さんが卒業する時には、今この時点の皆さんからは想像もつかないほど大きく・逞しく育っているであろうことを楽しみにしています。

皆さんの学生生活が充実したものとなることを重ねて祈念して、私からのお祝いと歓迎のご挨拶とさせていただきます。

皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。

以 上